

# こども記者が 高遠町商店街 「街なか博物館」で 宝物 みつけたよ!

## “宝物”にたくさんのエピソード

小牧弘季記者

商店街で見つけた古い物を写真にとりました。こどもスクールの体験教室は、それに北原照久さんにコメントをしてもらおうという形で進めていきました。ぼくがとくに興味深かったのは、「青い目の人形」の話です。戦争、アメリカのせん教師が、争いをやめようと人形を日本に送ってくれました。外国人らしい青い目、金色のかみがあります。しかし、戦争がぼつぼつ。人形は焼かれてしまいます。

なので、とても珍しいものです。商店街に展示してあった人形は、東京から買ってきた物なんでしょう。もしかしたら、戦火をまぬがれたのかもかもしれません。そうした話を北原さんはしてくれました。一つの物にも、たくさんの悲しみやよこごひのエピソードがあるのだなと思いました。

\*高遠町商店街に展示してある人形(右の写真)は、今年78歳になるお店のおばあさんが生まれた時に、親戚の人が東京のパートで買ってくれたそうです。

伊那市高遠町商店街の方たちが、昔の「宝物」をそれぞれのお店に飾る「街なか博物館」を6月半ばまで開いています。3月6日に高遠町で開いた「こども取材教室」に参加した、小学1年生～6年生のこども記者たちが、カメラを手に商店街を歩いて、「宝物」探しをしました。お店の方たちは、とても親切に「宝物」にまつわる思い出を話してくれました。

### ◆こども記者が撮影した「宝物」たち◆



1. ペッコちゃん人形(ジョイボックス牛山)=中山怜音記者 2. 手巻き蓄音機(明和不動産)=田中成幸記者 3. けたスケート(菊屋商店)=植木ゆうな記者 4. 碧い瞳をした人形(酒舗にんべん)=武田彩波記者

5. ジャバラ式カメラ(いろは堂薬局)=溝口紗彩記者 6. 古い薬の看板(いろは堂薬局)=竹村菜津記者 7. ジャバラカメラ(呉服と染しずや)=輪湖勇哉記者 8. 昭和20年代のかみそり(ヘアサロン池上)=佐々木稜記者 9. ベルリンの壁(ファッションデパート・カミリ)=伊藤雅之記者 10. 記念硬貨とメダル(オナヤ時計店)=岡島慶侍記者 11. アルパカの人形(アドエサルサ)=牧田ほか記者・げんき記者 12. 高遠焼のつぼ(高遠まん頭あかはね)=唐木美緒記者 13. 高遠焼の口付徳利(アカハネ時計店)=森 恒大記者 14. 除隊記念の杯(モリモト洋品店)=輪湖幸太記者 15. 長火ばち(割茶だるまや)=埋橋優衣記者 16. 勲業債券(十一屋酒店)=細田登登記者

\* ( )内は「宝物」があるお店の名前



本当に楽しく時間を過ごさせてもらいました。こども記者のみなさんが素晴らしい目を持っているので、うれしくなりました。一緒に過ごさせてもらって本当にいい勉強になりました。

## 戦争のころの 食べものを取材したよ!

高遠町商店街での「宝物」探しの後、「こども取材教室」がスタート。高遠のおばあさんたち(小松節枝さん、武井と志子さん、畑好子さん、小松やす立さん)が、こどもだった戦争のころに食べた代用食の「さつまいも入りご飯」と「うすやき」を作ってみせてくれました。こども記者25人は、おばあさんたちに作り方を聞いたり、実際に食べたり、また当時の学校の様子や遊びについて取材して、記事を書きました。



おばあさんたちにこども記者クラブの名刺を渡して、取材をしました



## とてもおいしいみそ味のうすやき

武田彩波記者

畑好子さんに聞きました。代用食というのは、こどものころ、せんそうがなくて、食べるお米が少なく、おやつやこぼれだったそうです。今回食べたのは、サツマイモはんぱんとうすやきでした。サツマイモはんぱんは、きゅうあまりにもたまに出るので、あまりにもうすやきはなかったです。でも、うすやきは、はじめで、みその味がとてもおいしかったです。このうすやきは、「はんぱん、みそ」と



生地が厚すぎると、火が通りにくいので